

「自分を変えたい」あなたへ

学生のおすすめ

以前の私は、思い通りに物事がいかないと機嫌を損ねることが多くありました。大学生になったのにこれではダメだと感じていた時に、この本を読みました。タイトルをみて「なにそれ？」

という感じでしたが、本を読むのが苦手な私でもスラスラ読めました。当たり前のことが書かれているように感じますが、それを当たり前にするのは難しかったりします。この本に書かれていることを一つずつ習慣づけるだけで、自分に余裕ができてイライラしなくなり、怒らない技術が身につきます。「少しでも自分を変えたい」「自分に余裕がほしい」という方はぜひ読んでみてください。



◎フォレスト2545 新書 怒らない技術 (嶋津 良智 著/フォレスト出版) (2010/07/17 出版)



(大学3年・城間莉咲)

「伊豆の踊子」

学生のおすすめ

最近のおすすめではないのですが、日本の古典的で有名な文学にふれてみました。「道がつづら折になって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃、雨足が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追って来た。」という書き出しで始まる川端康成の『伊豆の踊子』。あたかも自分がその場にいるかのように、鮮明に情景を頭の中に浮かび上がらせるような言葉遣いで、読み手を物語の中に引き込みます。あまり読む機会はないかもしれませんが、川端康成の綺麗な言葉で書かれた文章を読んでみてはいかがでしょうか？



◎伊豆の踊子 (川端康成 著)

(児教1年・井上瑠夏)

● Information

1. 「学生用印刷コーナー」を作りました

学生用パソコン15台に付属していましたインクジェットプリンターが老朽化したため、2011年4月より「学生用印刷コーナー」を設け、白黒・カラーのレーザープリンター2台を置きました。学生用パソコンで作成したデータをUSBメモリスティックに保存し、「学生用印刷コーナー」で印刷してください。ただし、用紙は持参してください。用紙は食堂2階のササキスポーツで販売しています。



2. 「コミック図書コーナー」を作りました



2011年6月より2階エレベーター横に「コミック図書コーナー」を作りました。スポーツコミックを中心に16タイトルあります。今後、さらに充実させていく予定です。

また、こんなコミックを置いて欲しいというリクエストがあれば、受付けていますのでカウンター横のリクエストボックスに投書してください。

3. 雑誌の特集記事の検索について

本学では、雑誌の特集記事の入力作業を行っています。雑誌データベースの記事索引が最近、充実してきたとはいえ、スポーツの一般雑誌は記事が掲載されていない事が多いのです。そういうことを踏まえ、図書館では、特に学生に関連のある雑誌の記事をデータベースにして、特集記事を入力しています。雑誌データベースで検索できなかった場合、本学のOPACの蔵書検索のところから、検索してみてください。



編集・発行：東京女子体育大学・短期大学図書館運営委員会
東京都国立市富士見台 4-30-1 TEL.042-572-4131

豊穣の秋

秋といえば、実りと収穫の季節。果物や野菜がおいしい季節ですね。もちろん読書とスポーツの季節でもあります。あなたも図書館で素敵な収穫をしてください。





「新しい教材と視点で創る 古典の授業」

学校における古典指導は長い間固定化されてきた。教材は中学で「枕草子」「平家物語」等、高校で「源氏物語」「伊勢物語」等が長年使われ、指導法も解釈型授業が中心で、そのための文法学習が古典嫌いを作ってきた。本書はこのような古典指導について新しい教材と指導法を提案している。教材としては仮名草子の作品群や「解体新書」「蘭学事始」などを、指導法としては、古文と現代の随筆、落語と浮世草子などを読み比べ、それぞれの価値観を評価させる例などを提案している。従来の古典教育に一石を投じるものになったと考えている。

(国語教材・田中洋一)



◎ 中学校国語科 新しい教材と視点で創る古典の授業—伝統的な言語文化の享受と継承 (田中洋一 編著 / 東洋館出版)

ソルフェージュ

「ソルフェージュ」とは、楽譜を読むための基礎で、演奏や創作をする上で身につけておきたい能力の一つです。一般に、楽譜を見ながら歌う「視唱」、音を聴いて書き取る「聴音」、メロディーのリズムを手で叩く「リズム打ち」など、実技を通して学んでいきます。

- ◎ 学生のための80のソルフェージュ (ピアノ伴奏つき) (柳田憲一 著 / サーベル社)
- ◎ 学生のための50のソルフェージュ (ピアノ伴奏つき) (柳田憲一 著 / サーベル社)
- ◎ 学生のための35のソルフェージュ (ピアノ伴奏つき) (柳田憲一 著 / サーベル社)

本書は、メロディーをピアノ伴奏で歌う練習教本です。不思議な和音も多く使っていますので、今まで聴いたことのない音の世界を感じることができるともかもしれません。子どもと一緒に歌を歌うとき、先生が状況に応じて色々な伴奏をしてくれたら…楽しくてしょうがないでしょうね。皆さんも、ソルフェージュ能力を高めてみませんか。

(音楽・柳田憲一)



おすすめ
の
1冊

アハメドくんの いのちのリレー

イスラエル兵に射殺されたパレスチナの少年アハメドは、わずか12歳だった。父親は、その悲しみや憎しみをこころの奥深くに秘めながら、なんと敵対する国の病気の子供を救うため、我が子の臓器移植を承諾した。心臓はハート、ハートには「心」という意味も…と語る父親は、心臓移植をしたイスラエルの少女に平和への願いを込めて、アハメドの夢を…託したのだ。

著名なお医者さんでもある鎌田先生が、現実にあった愛の物語に自身を投影しながら、人々の優しさのバトンを世界に繋げたいとの願いを、この絵本にした。瀬戸内寂聴さんは「世にも美しい、そして哀しい絵本」と帯に一文を贈っている。
(野外運動・浜田建司)



◎ アハメドくんのいのちのリレー (鎌田實 著、安藤俊彦 画、ピーター・バラカン 英訳 / 集英社)



いつか読みたい作品



◎ ローマ人の物語 (塩野七生 著 / 新潮社)
(単行本 全15巻、文庫本 全43巻)
*本学図書館では単行本全15巻を所蔵しています。

いつか読んでみたい書籍に、ローマという国の神話に近い始まりからその終焉までを、塩野七生氏が著した『ローマ人の物語』があった。この大震災前に文庫版を手にする機会を得た。この半年で全43巻中第37巻まで、期間にして約1000年!!について読み進めてきた。本書には数多の政治ドラマが描かれているが、現在の我々の置かれている状況から特に私が興味を引かれたのは、ローマが地震・火山の噴火など天災からの復興にも、かねてより規則を定め対応していた部分である。まだ読破していないが、またいつか最初から読んでみたい。

(運動医学・山田浩二郎)

おすすめ
の
1冊

豊穣の秋

子どもと 自然にかえる



◎ 森のようちえんのうた〜ハケ岳の森に育つ子どもたちの記憶〜 (財団法人 キープ協会 編著 / 毎日新聞社) (2008/7/19発行)

ハケ岳の麓で「キープ森のようちえんプロジェクト」が2002年に立ち上がり、前職場の園児が参加したり、指導者の講演を聞いたりしたことがあります。この『森のようちえんのうた』は、自然の中で遊ぶ子どもの息づかいが感じられる写真集になっています。四季と動植物と様々な子どもの顔の表情から、生きるエネルギーをもらえます。後ろのページには、子どものエピソードや、イラスト入りの活動内容が説明されています。将来、幼稚園教師を目指す学生のお守りになるような素敵なお本です。

(保育総論・佐藤喜代)

おすすめ
の
1冊

卒業生の著書紹介

「甲子園だけが高校野球ではない」

高校野球といえば甲子園。青春のシンボルとして、毎年、大々的に報道される国民的行事となっていますが、大多数の球児は甲子園に手が届かず終えていきます。甲子園には出られなくとも、選手の数だけ、いや、選手を支える家族、つきあう彼女、指導者の数だけ苦悩があり、喜びがあり、ドラマがあります。高校野球の現場を取材して歩く中で、記事にはならなかったけど、ぜひみんなに聞いてほしいストーリーがあります。家族がリストラに遭い野球を続けるべきか悩む球児、病気に冒されながらも野球を続ける球児……など、共感して泣けてきてしまう一冊になっています。

(スポーツライター・瀬川ふみ子
平成4年度大学体育学部卒)



◎ 甲子園だけが高校野球ではない (岩崎夏海 監修 / 廣済堂出版)
(瀬川ふみ子・安田未由 取材・文、岩崎夏海 監修)